

当たり前の継続

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

西田 愛日

最近、水不足が深刻化しているのを耳にします。今までにそのようなことがなかった訳ではありませんが、さらに問題視されているように思います。といつても、私も意識しだしたのはついこの間のことです。近所にある電光掲示板の、「ダムの貯水量が減っている」という表示がきっかけでした。あまり雨が降っておらず植物も満足に育てられない、という農家の声を二ユースで聞いていましたが、未だその実感は得られていませんでした。ところが、自分の知っているダムの貯水量が減っていると聞いてやっとな実感が湧きました。私は水不足を他人事のように考えてしまっていたことを、改めて理解しました。そこで、水がなくなつたときの生活を考えてみました。

まず朝起きてトイレに行く。歯を磨き顔を洗う。当然、飲用水も必要です。他にも様々な場

面で水が必要になります。水不足になったとすると、給水車から水を汲み、簡易トイレで用を足す生活になります。このような状況はキャンプに少し似ていると思いました。キャンプ場で水を使用するときは、キャンプ場利用者共用の水場へ行かなければいけません。タンクに水を汲んでも、家族みんなで使えばすぐになくなつてしまいます。普段なら、数歩歩けばいくらでも水が出せます。ですが、キャンプ場ではわざわざ水場まで歩いてタンクに水を入れ、水の入ったタンクを持って帰らなければなりません。これはとても大変な作業です。ですから、キャンプ場で料理していて水をこぼしてしまつたとき、とてももつたいないと感じたことを覚えていきます。

今話したことを、普段の生活で考えてみるとどうでしょうか。普段の生活ならば先程も言つたように、数歩歩けばいくらでも水が出せます。タンクを持って歩くこともないので、料理中にシンクに水をこぼしてもあまり気になりませ

ん。簡単に水が出てきてしまうので、どうしても水へのありがたみが薄れてしまっています。そして、今の生活がいかに恵まれているかを考えさせられます。ですが、私はそんなことも考えず、ついこの間まで当然のようにシャワーを使い、手を洗い、歯を磨き、色々なことをし、その度無駄にしてきました。その当たり前がどんなに大切なのかも知らずに。水不足は他人事ではないと強く思います。当たり前がずっと続くことなんてありえません。どうせ雨は降る、ダムが干からびることはないという確証もありません。いつかそんな日がやってくるのです。そのいつかが今日ではない保証などどこにもない、だからこそ、今できることを積み重ねていくことが大切だと私は思います。